

ノコギリソウ

Achillea alpina

キク科



上から見たノコギリソウの花

名前の由来

葉の縁に入るギザギザをノコギリの歯に見たてて名付けられた。ハゴモソウ、メドキ、ヤスリグサなどの別名がある。漢字名：鋸草

形態的特徴

高さ50~100cm。茎に軟毛があり、上部では密生する。葉は長楕円形で、縁に細かい切れ込みが入りノコギリの歯のように見える。花は中央に淡黄色の筒状花が集まり、その周囲に白色~淡紅色の花びらを持つ舌状花が5~7個つき、径7~9mm。花（頭花）は茎の頂に多数が集まって（密に散房状に）つく。

類似種と見分け方：セイヨウノコギリソウ（外来種）。セイヨウノコギリソウの葉はノコギリソウよりも細く密に切れ込み、やわらかい。



ノコギリソウ。
ノコギリの歯のような葉



セイヨウノコギリソウ。
葉はノコギリソウよりも細かく切れ込む



魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

（在来種）
草花

（外来種）
草花

哺乳類

（水辺）
鳥類

（草原・樹林）
ワシ・タカ
鳥類

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期				■								
結実期				■								

生育環境・分布

平地や海岸の草原に生育する。

分布：国外分布は、温帯から寒帯に生育し、朝鮮南部、樺太、中国、ベトナム北部、ネパール、シベリア東部、カムチャツカ、アリューシャン、北アメリカ。国内分布は、北海道と本州。北海道内分布は、海岸沿いを中心に、全道。十勝地方では、海岸沿い、十勝川河口付近や下流域の草地に見られる。



ノコギリソウ。海岸の原生花園で多数見られた

生活史

開花時期：7月中旬～9月中旬。

開花までの年数：不明。

寿命：多年草。

他生物との関わり

花には虫が訪れる。



ノコギリソウの葉



ノコギリソウの花

興味深い話

■ノコギリソウ類には様々な薬効があり、葉を乾燥させたものは健胃、強壮、鎮痛、止血、できものなどに用いられる。漢方では全草を健胃、風邪薬に用いる。

■ヨーロッパでは傷薬として使われ、スウェーデンではホップの代わりにビールに混ぜて飲むと酔いが強くなるとされた。

■イギリスでは葉を乾燥させてタバコの代用品として用いたという。

■十勝地方のアイヌ語では「レタンノヤ」という



ノコギリソウ

配慮事項

特になし。

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・樹林)
鳥類
ワシ・タカ

参考文献

「改訂版 牧野新日本植物図鑑」牧野富太郎 北隆館 1989

「北海道植物図譜」滝田謙讓 自費出版 2001

「日本の野生植物 草本Ⅲ」佐竹義輔・大井次三郎 他 平凡社 1981

「北海道薬草図鑑 野生編」山岸喬 北海道新聞社 1992

「図説 花と樹の大事典」木村陽二郎・植物文化研究会・雅麗
柏書房 1996

「知里真志保著作集 別巻Ⅰ 植物編・動物編」知里真志保、平凡社、1976